



2020年度報告書 宿泊機能をもつ

WAKUWAKUホーム事業





目次

- 03 はじめに
- 04 WAKUWAKUホームとは
- 05 利用者数及び、内訳
- 06 WAKUWAKUホームのスタッフより
- 07 Aさんのこと
- 08 WAKUWAKUホームギャラリー
- 10 WAKUWAKUホームについて、利用する子どもたちへのアンケート
- 12 イベント報告
- 15 おわりに

はじめに

2019年3月、突然、学校が休校になりました。

そして、4月、緊急事態宣言が発令されました。さすがに、WAKUWAKUホームも居場所としてはクローズせざるを得ませんでした。緊急事態宣言が解除された6月より分散で始め、7月に、火曜と木曜に小学生の部を増やし、今にいたります。

コロナにあけくれたこの一年。

子ども食堂は三密以外の何物でもありません。三密の中にこそ、子ども食堂の良さがあるのです。肩を寄せ合ってわいわいガヤガヤした中で食べる楽しさがあります。WAKUWAKUホームも同じです。しかし、そのような居場所づくりを否定するのがコロナです。人が集まっちゃいけないとは、なんと非人間的なことでしょう。つながることをめざしてきた私たちの活動はコロナによって阻まれました。

しかし、6月以降、WAKUWAKUホームは活動を継続してきました。子どもは重症化しない、20才未満の死亡者は0です。腹をくくって活動することにしました。なぜなら、子どもの成長はまったなし、今、居場所を必要としている子どもたちが目の前にいるからです。

長い人類の歴史の中で、2020年は特筆される年となることでしょう。

そして、2021年はどんな年になるのでしょうか。安易に未来が予想できなくなりました。でも、子どもたちの未来は輝かしいものであると信じたい。どの子もその子らしい人生を歩んでほしいと思います。

WAKUWAKUホーム管理人 天野 敬子

※本事業は、子供の未来応援基金と赤い羽根福祉基金から助成を受けて運営しています。



WAKUWAKUホームとは

宿泊機能をもつ子どもの居場所。利用料は無料である。貧困、疾病、障害、その他さまざまな理由から養育困難に陥る家族が地域に少なくない。市町村の対応窓口においても、児童相談所においても、全国的に児童虐待相談件数は増加の一途をたどっている。対応件数が増えてくると、重篤なケースを優先せざるを得なくなり、予防的介入はしにくくなる。

一方で、調子の悪い時にちょっと支えてくれる人がいれば、ちょっと預かってくれるところがあれば、危機を乗り越えていける家族もある。子どもを住み慣れた地域から引き離すことなく、安全に、地域で見守り育てていくために、地域住民にできることを提供するのがWAKUWAKUホームである。地域住民主体のNPOが、すべての子どものwellbeingをめざして、支援機関と連携しながら、貧困・虐待の連鎖を断つために活動している。

宿泊機能

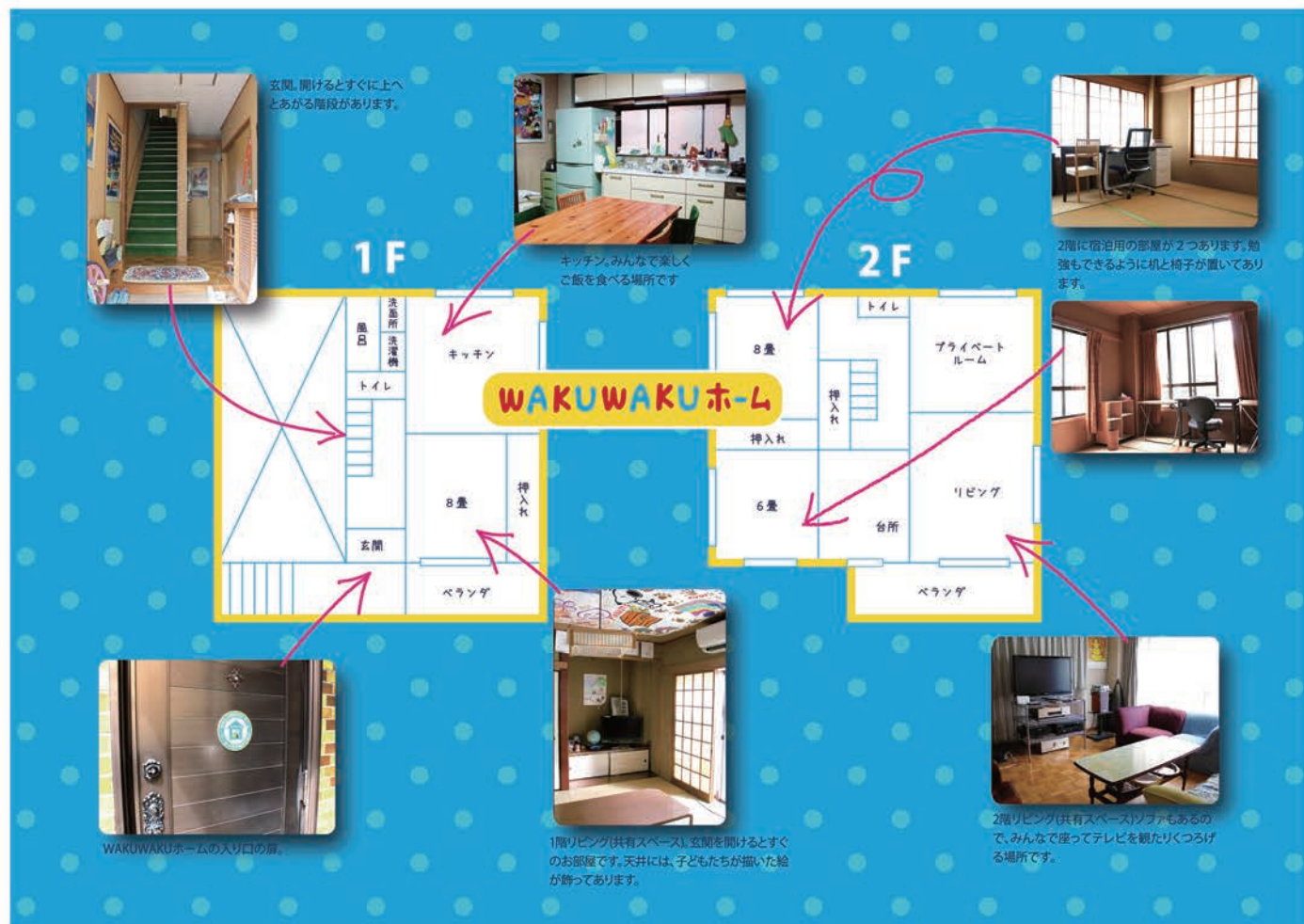
急な出張、緊急入院、今日は鬱で動けない、そんなさまざまな保護者の事情に応じて、柔軟に宿泊対応をしている。家に帰りたくないとやってくる子どももいれば、子どもと距離をとりたいという親もいる。必ず保護者の了承のもとにお預かりしている。

居場所機能

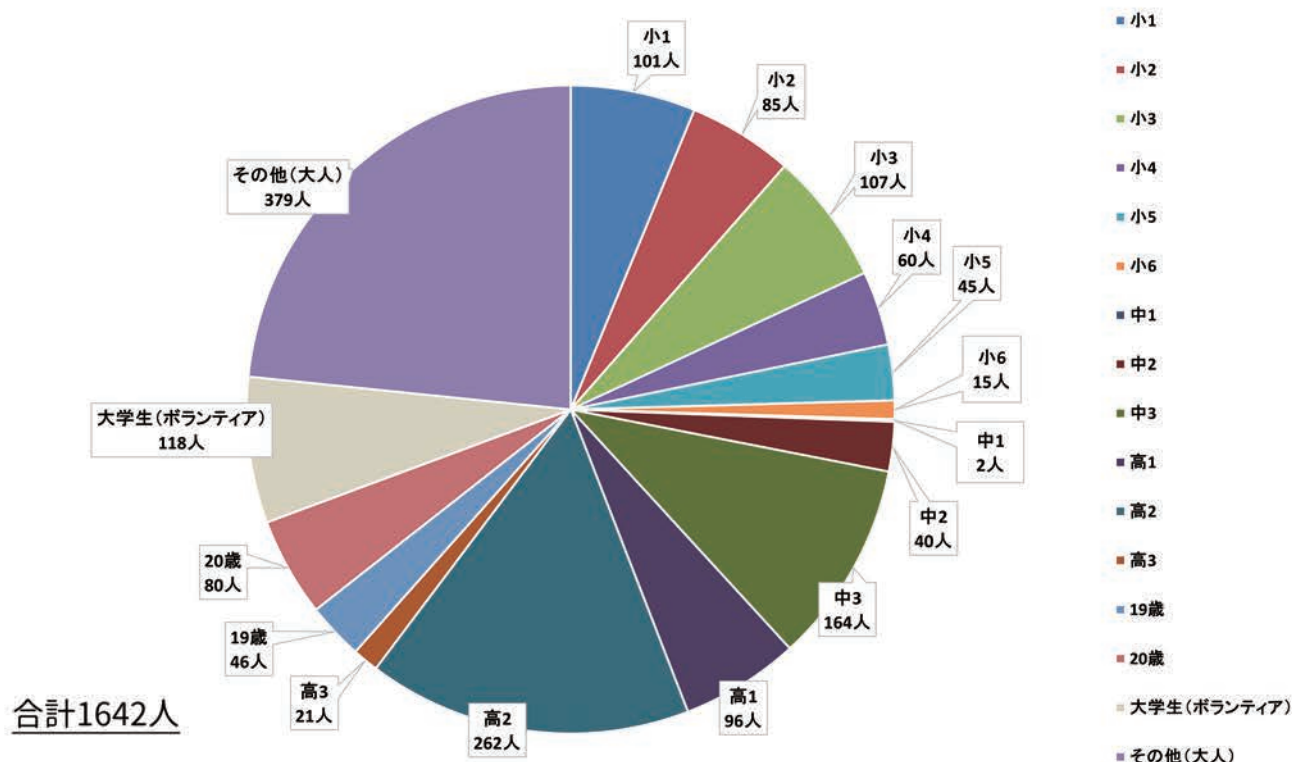
火曜日から土曜日までは、ホームをオープンにしている、地域の子どもたちが遊びに来る。サポートしてくれる学生ボランティアや地域のボランティアさんがいる。

相談機能

子どもと保護者の相談に随時応じている。



年間利用者数(宿泊者数、子ども食堂等の参加人数を除く)



月別宿泊利用人数

延べ 236泊

4月	5月	6月	7月	8月	9月
1人 (30泊)	2人 (35泊)	2人 (31泊)	2人 (32泊)	3人 (27泊)	3人 (11泊)
10月	11月	12月	1月	2月	3月
4人 (7泊)	5人 (11泊)	2人 (6泊)	2人 (6泊)	3人 (11泊)	10人 (29泊)

WAKUWAKUホームで行っているグループ活動

「いけいけ子ども食堂」 第一第三水曜日実施

勉強会のスタッフが主催し、毎回15名余りの子どもたちがやってきて、一緒に夕飯を食べる。主に、WAKUWAKU勉強会に通う中高生が利用している。年間利用者数・・・子ども142人 大人69人
(コロナにより2020年度は休止やお弁当配布のみの時期あり)



しんぐるまざーず。ぽこあぽこの会 第四日曜日実施

シングルマザーさんの自助グループで、WAKUWAKUで支援してきたお母さんたちが立ち上げたグループである。当事者が力をつけて、当事者どうしで助け合っている。セカンドハーベスト(フードバンク)からの支援物資を配布している。毎回、10名程の参加(コロナにより2020年度は休止時期あり)

不登校の親の会 第二土曜日実施

共通の悩みをもつ者どうしなので、共感的受容的にお互いの話を聴くことができ、エンパワメントされて帰っていく。毎回、4～5名程参加(コロナにより2020年度は休止時期あり)

水島 政行(金、土曜 勤務)

私は、WAKUWAKUホーム設立当初からスタッフとして関わっています。
とはいえ、これまで子どもと接する経験は皆無でした。

ちょうど自分自身の将来設計を模索していた中で、WAKUWAKUホームにスタッフとして関わることのお話をいただき、とくに深く考えずにイエスと答えてしまいました。スタッフとして活動していると、様々な子どもと出会うこととなります。



その中でも、印象的で現在も関わりのある子ですが、スタッフ1年目から関わりのある、とある小学1年生の子と出会いました。

その子は、WAKUWAKUホームで泊まったり、お母さんの仕事の関係で夜遅くまで預かったりするため、学童が終わる17時頃に向かいに行くというミッションが私に与えられました。子を持つ親なら、我が子を迎えに行くという当たり前の行為で深く考えもしないと思いますが、外部の人間がいきなり行くことはかなりのハードルです。精神的にはドキドキな体験です。初めましての子にどうやって接したらいいかなどググってもたいした情報は得られません。

そうになると、頼りになるのは自分が親や大人にしてもらって嬉しかったことや、本や映画などから考察した経験です。それらを頼りに、その子がとにかくWAKUWAKUホームに来たら楽しいと思ってもらえるように自分なりの表現を模索しました。

そして、いきついた結論としては「あの時あそこのオッサンと過ごしたときは楽しかったなあ」と記憶の片隅に残してもらえたらなあということです。

WAKUWAKUホームのスタッフとして関わった子ども達が大人になって自分の子どもや何かしらのきっかけで関わる子どもへの接しかたに迷ったときは、水島というオッサンがどんな風にしていたか、反面教師でもいいですが思い出してくれたら嬉しいです。

石川 歩(火、水、木曜 勤務)

「にんげんといったらこわい」

帰り道、「〇〇と言ったら△△」のゲームをしていた時、小学校1年生が何気なく言った。

日本語があやふや、基礎的な計算が難しい、調理前のゴボウを知らない。

ホームに通う小学生たちには、「長期休み朝昼何も食べていない」というようなこと以外にも、文化的なことそれぞれ様々な気になることがある。絵本を一緒に読んだり、一緒に料理をしたり、少しずつ多様な経験をしてほしいと願いながら関わっている。

ただ一番の課題は、冒頭の彼の言葉に凝縮されている。ひとへの根本的な信頼感をはぐくむことだと思っている。にんげんを好きでいてほしい。

そのために、私たちに何ができるだろう。

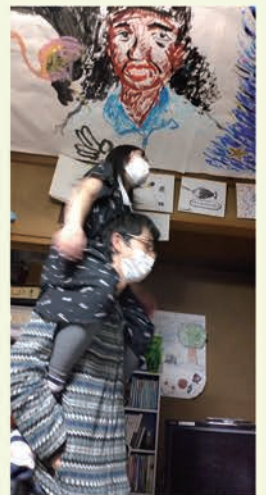
小学生たちは、始めはうまくぶつかれず、ケンカにもならなかった。

大人が関わり、丁寧に間に入って気持ちをきき、時に見守りながら少しずつ「〇〇が△△したのが嫌だった」と、自分の気持ちを言葉にできるようになった。

次第にそれを一方的にぶつけるだけでなく、「だったら××したらよかったじゃん」と、相手の気持ちにも耳を傾けて対話ができるようになった。

ケンカを通して、怒りの感情との付き合い方、自分と相手の気持ちが違うこと、それでも一緒に共感しわかりあえることを少しずつ学んでいく。

日々はどうしようもないくらい、小さな一步一步だけれど、喜怒哀楽いろんな感情があるけど、だからこそ人間っていいなと思えるように、今日も子どもたちと関わっていきたい。



Aさんのこと

2020年の1月の終わり頃に、高校3年生のAさんはホームにやってきた。

Aさんは中学校時代に不登校になったため、教育センターのカウンセリングを長年、受けてきた。たぶん、Aさんが一番信頼しているのはこのカウンセラーさんである。1月のカウンセリングで、Aさんは、とうとう父親と大喧嘩をして家を出たこと、友達の家にいるがいつまでもいられない、どうしよう、と相談した。カウンセラーさんは、子どもの権利擁護担当の弁護士さんに相談し、弁護士さんはAさんが18才になっているので区の女性相談に相談し、女性相談はまだ高校生だから、区の子どもの権利グループにも関わってもらえるはず、と声をかけた。Aさんを連れてきたのは、権利グループのワーカーさんだったが、弁護士さんも女性相談も権利のワーカーさんもWAKUWAKUホームの存在をよくご存じの方たちだった。

Aさんに台所で、申込書を書いてもらったとき、その名前を見てはっとした。「私、あなたのこと、知ってるよね?」と問うと、彼女は大きくうなづいた。Aさんは私のことに、すぐに気づいたというが、私はあまりに素敵な女性になっていたので分からなかったのだ。Aさんが小学校6年生くらいのときに、弟や妹と一緒に、私が担当していた無料学習支援に通っていたのである。1年くらいは通ってくれたように記憶する。夏の飯能河原でバーベキューというイベントにも参加してくれた。お母さんがいつもお迎えにきて、お子さんが多くて大変ですね、と言った言葉を交わしていた。Aさんはその頃から背が高くてすらっとした子だった。そして、おとなしくて家のことは何も言わなかった。そんなに大変な思いをして生活していたことを私は何も気づいてあげられなかったのだ。その日から、AさんはWAKUWAKUホームで暮らすことになった。その数日後に、ホームですべての支援者が集まって、Aさんと共にケース会議が開かれた。これだけ区の各部署が集まるケース会議もめずらしいと思う。Aさんの気持ちを尊重しての支援が始まった。

Aさんは、存在が希薄な感じで幽霊っぽかった。1週間くらいたった頃、彼女がぼそっと口にした言葉がある。「私、食事のときに緊張するんです…」いつ父親が怒鳴り出すか分からない、そんな緊張感の中でいつも食事をしてきたという。感情を殺して、殺して…

ホームで毎日、わいわいガヤガヤ食事をする中で、Aさんは少しずつ変わっていった。コロナのため思うようにバイトが見つからず、悶々とした日々もあったが、いろいろな方の手助けを経て、8月の終わりに、バイトを見つけ部屋を見つけ、念願の一人暮らしをするためにホームを卒業していった。Aさんに幸あれ。



ダンスダンスダンス!!

ホームにあるゲーム機のダンス
ゲームで遊ぶ子どもたち



スイーツづくり

ゆうさん(天野:夫)主導のもと、
みんなでスイーツづくり!!

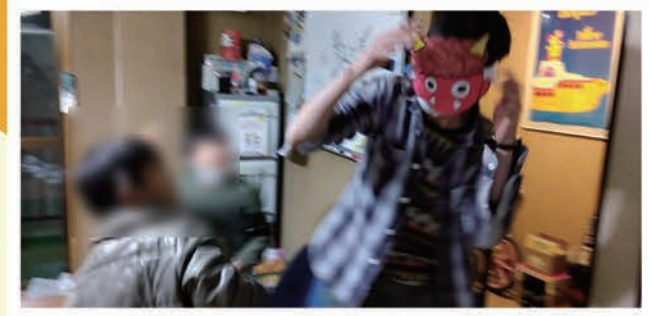


料理を食べたり、
作ったり、片づけたり



豆まきの鬼は大変・・・!

あむさん(スタッフ:石川)が、鬼となり子ども
たちから豆をぶつけられてます(笑)



勉強したり、
工作したり、
本を読んだり



誕生日は、ケーキでお祝い♪



それぞれが、
自由に過ごせる居場所

火、木は、主に小学生が利用し、宿題や、工
作、ボードゲームなどをして遊び、
水、金、土、主に中高生が利用し、TVゲーム
や勉強などをして自由に過ごしています。
どちらも、一緒に夕食を食べて、宿泊する
子以外の、小学生は20時まで、中高生は21
時まで利用可能です。



WAKUWAKUホームについて、利用する子どもたちへのアンケートなど

◎WAKUWAKU ホームはあなたにとってどんなところですか？

居心地の良い所。勉強がしたいときにでき、
ゲームがしたいときにできる自由な空間。色々な人
がいるから人との関わり、理解、接し方が学べる。

◎ホームで印象に残っていることは何ですか？

ゲームと食事、人との会話

高2

◎WAKUWAKU ホームはあなたにとってどんなところですか？

楽しいです。~~友達~~ ~~友達~~ 友達と一緒に
遊ぶのが楽しいです。小島さんと(Call of Du
ty)のコールオブデューティが楽しいです。楽しくりしたり
しています。(遊人たり)

◎ホームで印象に残っていることは何ですか？

また行きます。子供達と一緒に遊ぶ
所です。

19歳(過去WAKUWAKUホームに長期宿泊経験)

◎WAKUWAKU ホームはあなたにとってどんなところですか？

とても楽しいところ

◎ホームで印象に残っていることは何ですか？

水島さんがとてもおてきです。

20歳

◎WAKUWAKU ホームはあなたにとってどんなところですか？

自分にとって第2の家のような所。
親から話をしづらい相談とかを話しやすい。

◎ホームで印象に残っていることは何ですか？

お工作ボードの指輪を、指も消さるいいこと。

高2



「WAWAKUWAKUホームを利用する保護者へのアンケート」

◎WAKUWAKUホームはあなたにとってどんなところですか？ ◎ホームで印象に残っていることは何ですか？

・最初は、ホームに子どもを預ける事が不安でしたし、自分の気持ちを天野さんに話す事が正直嫌でした。子どもとの関係に腹を立てたり辛かったりして、その事を話すのが嫌でした。恥ずかしかったからです。でも、話せる人、甘える事ができる人ができて、良かったです。

娘が天野さんの旦那さんと大騒ぎして料理を作った話を聞くとほっとします。私も小さい時にお父さんと仲良くしたかったです。そんな風に思う事があります。仕事帰りにホームに寄ってご飯を食べられず、申し訳ないです。体調が悪くて疲れ過ぎていけるせいもあります。食べたいのに、食べられない、というのが申し訳ないです。ほっとしすぎて、帰りたくなるのも、ホームの良さですが、私にはぬるま湯で、私が泊まりたくなることがあります。ホームがあって良かったです。

- ・ホームに行くようになって、友達ができて明るくなりました。
- ・良い人ばかりで、安心して居心地のいい場所。
- ・子どもたちが、笑顔で話をしているところ。

◎WAKUWAKU ホームはあなたにとってどんなところですか？

自分が生きててもいいのではと思うところ。

◎ホームで印象に残っていることは何ですか？

食事の時から皆が笑っていること。

ボランティアで定期的に関わっている大学生

◎WAKUWAKU ホームはあなたにとってどんなところですか？

楽しい場所です。ゲームもいっぱいあるし楽しくすごせる場所です。面白い人ややさしい人もいっぱいいるのでここにこれです。

あくわくホームはルールとかもほぼなく好きなようにできるのでストレスもなくて。

楽しい場所を見つけて本当に良かったと思います。

◎ホームで印象に残っていることは何ですか？

みんなやさしいです。なれは友達もできると思います。ゲームもみんなやってもらっています。ごはんもおいしいので良い場所です。分からない事があってもしようかんできるのだから安心です。

中3

◎WAKUWAKU ホームはあなたにとってどんなところですか？

自分にとってWakuWakuホームは人生でいう名の旅で疲れた時に思えば立ち寄りやすくなる1つの大事な居場所です。WakuWakuに行けばWakuWakuで出た友達、スタッフの方、WakuWakuに集まる親子や友達、色んな人が居て、みんなでテレビゲームやトランプをして遊んだり、みんなでおいしい食事を食べたりして不思議なつながりを感じ、暖かさを感ぜるところです。

◎ホームで印象に残っていることは何ですか？

自分は家庭の事情でWakuWakuホームに行くことになったのですが、ホームで過ごした1年がとっても印象深く思い出に残っています。この1年間は想像がつかない人生で色々な経験が出来た1年でした。当時中学3年生だったのですが、受験の時期でもあったため、ホームに居つつ、ホリデイで勉強を教える塾に行ったり、作文や面接の対策習をホームのスタッフとWakuWaku関係者の人が手厚く手伝ってくれたのをよく覚えています。そのおかげで第一志望の高校に受かることが出来ました。勉強が疲れた後のおいしい食事やWakuWakuのみんなとのゲームの時間も楽しかったです。他にも、WakuWakuの子供達と一緒に遊んだり、おしゃべり会に積極的に参加し、おしゃべり会が印象深い思い出です。

高2(過去WAKUWAKUホームに長期宿泊経験)

◎WAKUWAKU ホームはあなたにとってどんなところですか？

良い思い出で安心できる居心地の良い場所

◎ホームで印象に残っていることは何ですか？

Vもぎ土 受けのこと

中3

◎WAKUWAKU ホームはあなたにとってどんなところですか？

一週間のつかれや、ストレスをのさんしたりおんたてをえることを楽しめたりしてるとこの自分をたせること。

◎ホームで印象に残っていることは何ですか？

おんたてでゲームをしたりしたこと。

高2

「コロナ禍でのWAKUWAKUホームの運営」

2020年の4月7日に発令された1回目の緊急事態宣言の際には、WAKUWAKUホームの利用も休止致しました。その際に、普段利用していた子どもたちとのつながりを切らないように、週に一度LINEのグループ通話にて、おしゃべり会ということでもいつも来ていた、



配布したお弁当

中高生の子どもたちみんなと話す機会を作りました。学校も休校となり、家にいなければならない状況だったので、毎日のように顔を合わせていたWAKUWAKUホームの友達と、たわいのない会話をする中で、先の見えない不安が少しでも解消できたのではないかと思います。また、お弁当配布を行い、実際に取りに来てもらうことで顔を見てコミュニケーションがとれる日も作りました。緊急事態宣言が終わったあとは、何曜日は誰が来る日など一度に多くの人数がなるべく集まらないように運営しています。

2020年度は大きめの会場で、シンポジウムを開催予定でした。しかし、新型コロナウイルス蔓延のため、オンラインでの開催に致しました。登壇者はZOOM、参加者はその画面をYOUTUBE生配信で視聴して頂く形で実施致しました。1週間限定で公開していた動画の視聴者数は600回以上となり、オンラインだからこそ、遠方の方にも参加していただくことができ、有意義なものとして終えることが出来ました。

【イベント概要】

虐待や貧困など、さまざまな困難を抱える子どもたち。子どもを真ん中に、地域がつながり、すべての子どもが安心して暮らせる街にしたい。それぞれの視点から発表を通して、ともに考えていただけたらと思います。

開催日時：2021年1月11日（月・祝）18:30～20:30 会場：オンライン開催 動画視聴者数：610回（リアルタイム時120人視聴）

パネラー（発表順）：

「地域より」 天野敬子さん（NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク事務局長/『WAKUWAKUホーム』管理人/精神保健福祉士）

「里親より」 安藤莖子さん（NPO法人特別養子縁組支援グミの会サポート理事長/東京都養育里親・専門里親/豊島区ショートステイ協力家庭）

「施設より」 早川悟司さん（児童養護施設「子供の家」施設長/社会福祉士）

「行政より」 山本りかさん（豊島区子育て支援課長）

「ファシリテータ」 西郷泰之さん（子ども家庭福祉研究・研修機構長）

※当日の動画は、「子どもを通してつながるまちに」と、
Youtube内で検索頂ければ、アーカイブ版をご視聴可能です。



【参加者から頂いたアンケートの感想より】

（アンケート回答者：121人 イベント満足度：とても良かったが102人、良かったが19人）

- ・ひとり一人違っていても生活の基本である「一緒に食事する、時間と共に過ごし、楽しい時間を分かち合う、できる事で助け合う・・・」事から暮らしていけるといったヴィジョンをいただきました。
- ・本日のお話で最も印象に残ったのは、早川さんのお言葉「家庭・学校・地域のアイデンティティをばっさりやられたダメージは計り知れない」ということです。他の方のお話にも繰り返し出てきましたが、地域とのつながり、その連続性を保っていくことの重要性を学んだ講演でした。
- ・社会的養護について、具体的な話を聞く機会がなかったので初めて聞いた話ばかりでとても新鮮でまた役に立ちました。地域のつながりの重要性、ひとり親家庭の支援、困窮者支援と子供支援が密接につながっていることがよくわかりました。切れ目のないきめ細かな子供に寄り添った支え合いが大事だと感じました。
- ・安心は心、食事はお腹、その両方が満たされるということが大事と改めて感じました。ショートステイ、短期の里親、施設、GH、子供食堂、学習支援、居場所・・・どれだけ作ってもまた隙間やはざまは出てくる。そんな時にこそ地域の力って大事だとも感じました。
- ・親子を分離するだけでなく、親子を地域で包括的に支援する体制づくりが大切と改めて認識しました。
- ・重層的な連携・協働について、やはり市民の側からの動きはとても大切なのではないかと感じました。また、「支援」という言葉に対する違和感が、子育て・子育ての「シェア」という言葉でスッキリした気がしました。地域全体が自分ごととして、「子育てをする」、「子どもの育ちを応援する」社会の醸成を目指して活動することを忘れないようにしたいと思いました。
- ・地域とのつながり、そして重なり合った支援が大切だということを学びました。ショートステイが充実すれば、大きな問題になる前に防げるものも増えるであろうと期待します。
- ・「子どもの支援をするには、まず親の支援を」という趣旨のお話もありましたが、完全に親子の関係が壊れる前にサポートすると、親にとっても子どもにとってもいい形にできる可能性があるんだと学ばせていただきました。

地域の子どもを地域で見守り育てるために ～WAKUWAKUホームの実践より～

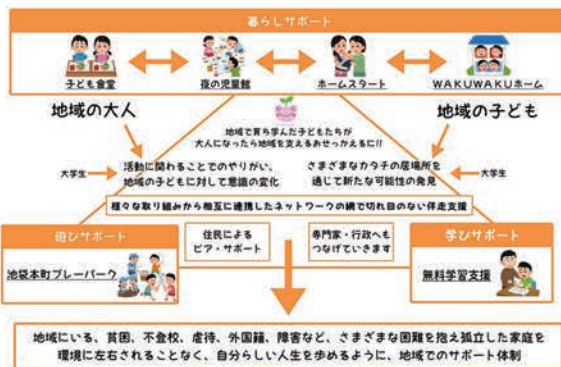
NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク
事務局長 天野敬子(精神保健福祉士)

豊島子どもWAKUWAKUネットワーク 地域を変える/子どもが変わる/未来を変える

「子どもの貧困」をテーマに地域の子どもを地域で見守り育てることを
コンセプトとして活動する地域住民主体のNPOである。

- ・遊びサポート…池袋本町プレーパーク
- ・学びサポート…無料学習支援「池袋WAKUWAKU勉強会」
- ・暮らしサポート…「要町あさやけ子ども食堂」「ほんちよこ食堂」
「椎名町子ども食堂」「池袋こども食堂」
「ホームスタート」「WAKUWAKUホーム」
「としまフードサポートPROJECT」

WAKUWAKUあせっかえるプロジェクトの概要



居場所の点在化

地域と子どもがつながる場

孤立しがちな家庭が地域とつながる場

地域の交流拠点としての可能性

居場所のネットワーク化

〇としま子ども学習支援ネットワーク(とこネット)

17カ所の無料学習支援
社会福祉協議会が事務局

〇としま子ども食堂ネットワーク(とこ食ネット)

19カ所の子ども食堂
豊島区子ども若者課が事務局

「居場所づくり」

- ◎地域サロン
- ◎フリースペース
- ◎コミュニティカフェ
- ◎アートのワークショップ
- ◎無料学習支援
- ◎子ども食堂



泊まれるお家



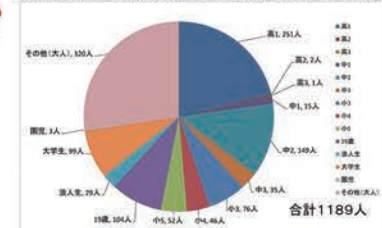
WAKUWAKUホーム 2017年4月～

- 宿泊支援:子どもが泊まれる場所
- 居場所の提供:学習支援、遊びの支援、食の支援
- 相談支援

地域の子どもを地域で見守り育てるために一時的にあずかれる場所
が必要

※赤い羽根福祉基金、子供の未来応援基金の
助成を受けて運営しています。

2019年度年間利用者数(宿泊者数、子ども食堂等の参加人数を除く)



月別宿泊利用人数

4月	5月	6月	7月	8月	9月
5人 (35泊)	3人 (47泊)	5人 (62泊)	6人 (57泊)	8人 (51泊)	6人 (67泊)
10月	11月	12月	1月	2月	3月
3人 (68泊)	4人 (56泊)	4人 (33泊)	5人 (42泊)	4人 (63泊)	4人 (66泊)



居場所づくり

- ◎火曜、木曜・・・小学校低学年 15:00～19:30
- ◎水曜、金曜、土曜・・・中高生中心 14:00～21:00
- ◎第一第三水曜日 『いけいけ子ども食堂』開催

※安心していただける居場所
※栄養バランスのよい手作りの夕食をとにする



宿泊支援

ひとり親家庭の子育ては大変

- ◎急に出張になってしまった。
- ◎緊急入院することになった。
- ◎今日は醬で食事を作れない。
- ◎これ以上子どもといると叩いてしまいそう。
- ◎家に帰りたくない(子ども)⇔子どもと距離をとりたい(親)



Aさんのつぶやきより

「私、食事のときに緊張するんです・・・」

「学校のポスターで虐待の相談先とか書いてありますよね、あれ、意味ないと思います。」



WAKUWAKUホームの必要性

- ◎子どもが安心して泊まれる。
- ◎地域や学校から切り離されない。
- ◎家庭とも行き来ができる。(親子関係の自然な修復)



宿泊支援

★ 子どもショートステイ協力家庭を増やす ★

2家庭 → 22家庭

※各区分民ひろばにひとつ



WAKUWAKUホーム



実例 Aさん 高校3年生



Aさんから教えられたこと

- ◎虐待に気づくことのむずかしさ
- ◎食の大切さ
- ◎虐待とは何かを子どもたちに教えていない



児童相談所の一時保護所の問題点

- ◎学校や地域から切り離されてしまう。
家の環境は悪くても、学校や地域にサポートされているケースはたくさんある。
- ◎性的虐待や命に関わる身体的虐待の場合は、すぐに保護されるが、保護所が常に満杯という現状があり、保護してほしくてもなかなか保護してもらえないことがある。
- ◎ネグレクトとよばれる虐待の場合は、本人が保護してほしいと言わないかぎり、なかなか保護してもらえない。
- ◎一時保護所に入るときに、私物を一切持ち込めない。規則も厳しい。



「貧困・虐待」の連鎖から「おせっかい」の連鎖へ



おわりに

今年度は、「子どもを通してつながるまちに」というイベントをオンラインで開催しました。YOUTUBE再生回数は610回。コロナ禍のお陰で、全国のたくさんの方に視聴していただくことが出来ました。インフォーマルに子どもを泊めてくださるお家が増えるためにも、まずは、ショートステイ協力家庭を22家庭に増やすこと、これが目下の私の目標です。

児童相談所の一時保護所のように子どもを家庭や地域から切り離すのではなく、家庭と親戚のように泊めてくださるお家とを行ったり来たりしながら、地域に見守られて豊かに育ってほしいのです。

地域の子どもを見守り育てることができるのは、近所に住む地域住民です。いろんなカタチで“おせっかい”する人や家を増やしていきたい。そして、すべての子どもが安心してのびのびと成長していける地域社会をめざしたいと思います。

子育てをシェアしましょう。多くのおとなが関わることで、多様な価値観を身につけて、自分らしい人生を歩むことが出来ると思います。



WAKUWAKUホーム管理人 天野 敬子

※ 昨年、すっかり枯れてしまったシクラメンが、また芽を出しました





みんなが帰ってこられるHOMEになれば
そんな願いを込めて...

WAKUWAKUホームは、以下の助成を受けて運営しています

社会を良くするたしかな一歩



子供の未来応援基金 <未来応援ネットワーク事業>



赤い羽根
福祉基金

赤い羽根福祉基金 <子ども家庭支援部門>



団体名

住所

TEL

E-mail

Webサイト

特定非営利活動法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク

〒171-0014 東京都豊島区池袋三丁目52番21号

050-5526-1229 火曜～木曜 受付時間:10:00～17:00

info@toshimawakuwaku.com

<https://toshimawakuwaku.com>